

	<h2>前川耀男区長 記者会見</h2> <h3>ねりまの将来像を区民の皆様と創ります</h3>
と き	6月19日(月) 午前11時～正午
と ころ	練馬区役所(練馬区豊玉北6-12-1)
<p>19日、前川耀男(まえかわあきお)練馬区長が第二回練馬区議会定例会にあたって記者会見を行った。</p> <p>前川区長は会見で待機児童対策について、「子育て支援は私の区政で最重要政策。私が就任した平成26年以降定員拡大を加速した。都内最大の定員拡大や、練馬こども園の創設、昨年は待機児童ゼロ作戦を展開し、質量ともに最大限の対策を講じた。その結果、供給が保育需要を1100人以上上回ったが、48人の待機児童が生じた。この現状を見過ごすつもりはない。新たに700人以上定員を拡大し、3歳児1年保育など、地域的な需給のミスマッチを解消する重点対策を実行する。待機児童ゼロの実現に全力で取り組んでいく」と決意を語った。</p> <p>また、グランドデザイン構想について、「グランドデザインは、みどりの風吹くまちビジョンの近未来ストーリーの具現化である。将来の夢や希望の持てる姿を示す。」と語り、ねりまの将来像を区民とともに創る意欲を語った。</p>	



【記者会見を行う前川区長】

【待機児童対策】

「待機児童数と定員推移」



5 平成30年4月に向けた待機児童対策

① 当初計画を大幅に拡大し、合計700人の定員増

○さらなる需要増と地域による需給のミスマッチに対応

⇒・年齢や地域の特性に応じて、保育施設の新規整備や保育ママの配置等を拡大

- ・他と比べて、地域偏在が著しくなることが予想される練馬総合福祉事務所管内には、保育所等の整備とともに、区立幼稚園を活用し、バス送迎による3歳児1年保育を実施

② 練馬こども園のさらなる拡大 ※700人とは別に定員増

【定員拡大の内容】

	当初予算	新規拡大分	合計
保育所の新規整備等	140人 <small>認可保育所1か所 小規模保育所3か所</small>	400人 <small>認可保育所4か所 小規模保育所5か所</small>	540人 <small>認可保育所5か所 小規模保育所8か所</small>
保育ママの配置等の拡大	—	30人	30人
3歳児1年保育の導入	—	80人	80人
既存施設等の定員拡大	—	50人	50人
定員合計	140人	560人	700人
平成29年度概算予算	4.5億円	4.3億円	8.8億円

3歳児1年保育の導入（80人）

- ・需給のミスマッチを解消する。地域偏在が著しくなることが予想される練馬地区に導入
- ・他の地区の区立幼稚園の空き教室を活用して3歳児の受け皿を確保し、バス送迎を実施する

【都の児童相談センターとの連携を強化】

- ・各区が児童相談所を設置するとすれば、現状より児童の処遇が改善されることが必要だが、単独設置では、改善が期待できない。
- ・当面、練馬区は、区の子ども家庭支援センターのきめ細やかな支援と、都の児童相談センターの広域的・専門的支援との連携強化を目指す。
- ・今回、都と協定を締結し、都との連携をさらに強化する。
- ・区職員を都の児童相談センターへ派遣し、都の援助方針会議に、ケース担当として主体的に関わる。
- ・都と区の連携強化により、新たに事業を開始する。
(1)巡回支援体制の強化、(2)要支援家庭へのショートステイ事業（最長14日間）

【ランドデザイン構想】

- ・区長就任以来、改革ねりまに全力を挙げて取り組んできた。「みどりの風吹くまちビジョン」「区政改革計画」を策定した。着実に実行し、確かな成果を上げている。
- ・今後さらに練馬区が発展するためには、ビジョン、区政改革計画の着実な実現と、更なる充実を図る必要がある。
- ・目指す将来像を区民と共有することが不可欠。概ね10年後から30年後の将来像を、既に検討に着手した「都市」に加え、「暮らし」および「区民参加と協働」の3分野を、ランドデザイン構想として示す。

【問合せ】

内容	所管課（問い合わせ先）
保育所待機児童対策	
(1) 保育施設の新規整備	保育計画調整課 5984-4687

(2) その他の待機児童対策	保育課 5 9 8 4 - 5 8 3 9
(3) 練馬こども園	こども施策企画課 5 9 8 4 - 1 5 2 2
都の児童相談センターとの連携を強化	練馬子ども家庭支援センター 3 9 9 3 - 8 1 5 5
グランドデザイン構想	企画課 5 9 8 4 - 2 4 4 8